

「稻」令和三年七月号 通巻五号（隔月刊）

主宰 山田真砂年 発行所 逗子市桜山

創刊 令和二年九月、山田真砂年が神奈川で創立、

令和二年十一月初刊

師系 中村草田男・鍵和田柚子

「俳句は詩です。詩は心のゆらぎ、きらめきです。

大きなゆらぎ、小さなゆらぎ、ほんの微かなゆらぎも詩です。さまざま心のゆらぎを十七音で表現したものが俳句です。気取らず、背伸びすることなく、今の己の身の丈にあつた言葉で表現しましょう。」

（稻俳句会ホームページより）

主宰作品「生ぬるき」より

長閑けしや草食みながら尿の馬 山田真砂年

川端のさくら舞ひ込むオムライス

花筏濁れる水を出でゆけり

著莪の花紫立ちし蔭の中

生ぬるき夜なり蛤すすりをり

主宰による「今月の推薦句」（三十一句）より

「垂穂集」より

彈き終へて少年の笑み雛祭

髪切つて大きな影の初つばめ

（瑞穂集）より

人柱めくや落花の渦にゐて

大坪 正美

岩本 尚子 今村 博子

春雷や客の残せしカステイラ
春の雷貼り紙剥がしゆくやうに

紫木蓮あとは剥がれてゆくばかり

（瑞穂集）より

陽炎の中を飛び出すアドバルーン

月影てふ縁帶びたる白き梅

行く春の人影に開く自動ドア

古稀の師の傘寿の弟子や初桜

主宰による「稻の香（選評）」があります。今月の

主催推薦句三十句全句についての鑑賞評です。

槍田良枝氏による評論「三橋鷹女の世界（二二）」が

あります。今月は「俳句への出発」と題し、原石鼎の

鹿火屋への入会とその後の活躍を叙した力作です。

続いて高原貞夫氏によるエッセイ「小津安二郎の俳

句」も興味深く読ませて頂きました。

大坪正美氏選による「課題句『辛夷』」があり、鑑

賞評が続きます。秀逸句十句、入選句十七句の中から、

秀逸句一句をご紹介します。

君逝きし谷川岳や花辛夷

相馬ゆう子

令和二年十一月の初刊から今七月号で通巻五号です。

充実の句群、鑑賞評群に加え、力作の評論、エッセイが続く読み応えのある誌面です

小見戸 実 沼田 布美 中村かりん